

## 第六歌 オデュッセウス、パイエケス人の国に着きナウシカアに会う

[スケリア](#)島の王女[ナウシカア](#)は川へ洗濯に行った。彼女は洗い場で[オデュッセウス](#)と出会い、食料と衣服を与えて彼を助けた。ナウシカアはオデュッセウスを町まで案内すると、人々から誤解されたくないの、しばらく待ってから町に入り王[アルキノオス](#)の屋敷を訪れるよう彼にいった。

## 内容

ナウシカア川へ洗濯に行く [アテナ](#)は[アルキノオス](#)の屋敷へ行き、[ナウシカア](#)の夢の中に現れて語りかけた。「年頃の娘らしく、明日は夜が明けたらすぐに河へ洗濯に出かけなさい」ナウシカアは父アルキノオスに頼んで馬車を出してもらい、洗濯に出かけた。洗い場で洗濯をして衣類を日に干すと、水を浴び、女中たちと毬遊びに興じた。



([画像/スケリア島のオデュッセウス](#))

**オデュッセウスとナウシカアが会う** 茂みで寝ていた[オデュッセウス](#)がその声で目を覚まし、様子を見ようと出て行った。潮水に苛まれたその裸身は、娘たちには見るも恐ろしく、みな逃げまどった。後に[ナウシカア](#)がひとり残った。[アテナ](#)が怖れを払ったので、たじろがず彼に向き合った。オデュッセウスは穏やかな声で自分の苦難の旅を語り、ナウシカアに助けを求めた。ナウシカアはここはパイエケス人の国であり、自分は王の娘だと自己紹介した。ナウシカアは騒ぐ女中たちを叱り、食べ物と飲み物と衣服を彼に与えるよう命じる。やがて体を清めたオデュッセウスの美丈夫ぶりに、ナウシカアは目を見張る。

**オデュッセウス町へ案内される** [ナウシカア](#)は言った。「[オデュッセウス](#)、これからあなたを町まで案内します。しかし、住民に妙な噂をされたくないの、私たちより遅れて町に入ってください。町に入ったら[アルキノオス](#)の屋敷を訪ねて、私の母に助けを頼みなさい」そして夕方、町の前に着くと、オデュッセウスは腰をおろしてしばらく待った。

## 関連

### 人名

[オデュッセウス](#)...漂流し、パイエケス人の国に流れ着く

[アテナ](#)...ナウシカアを出かけさせ、オデュッセウスと出会うよう仕向ける

[ナウシトオス](#)...アルキノオスの父で、初代パイエケス人の王

[アルキノオス](#)...パイエケス人の王

[ナウシカア](#)...アルキノオスの娘。流浪のオデュッセウスを助ける

[前へ](#) ... [オデュッセイア](#) ... [次へ](#)